

平成 24 年度 第二部会技術分科会 活動報告 (概要)

平成 25 年 6 月
一般社団法人 日本消火装置工業会

1. 委員会

(1) 委員構成

14 社 14 名で構成

(2) 開催回数

定例会 (原則月 1 回) 10 回 + 合同委員会 1 回 = 計 11 回

2. 審議・確認事項

(1) 金属製管継手およびバルブ類の認定制度移行に関する件

・第一部会技術分科会が主催した実験に参加した。

(2) P F O S 含有泡消火薬剤の取り扱いに関する各種リーフレット、資料について

・以下書類について、内容検討を行い、消火装置工業会のホームページ上へ掲載した。

① P F O S リーフレット

② P F O S 含有泡消火薬剤を使用した泡消火設備に関する取扱いについて (第 3 版、第 4 版)

③ 駐車場用の泡消火設備と使用する泡消火薬剤の調査票

④ P F O S 含有泡消火薬剤の調査等について

⑤ サンプルング検査について

⑥ サンプルング検査依頼票

⑦ P F O S 含有泡消火薬剤を使用した泡消火設備に関する取扱いについて (パワーポイント版)

⑧ 関係各社の問い合わせ窓口

(3) P F O S 非含有泡消火薬剤へ交換する際の交換範囲について

・ P F O S 含有泡消火薬剤を用いた設備から P F O S 非含有泡消火薬剤を用いた設備に交換する時の交換すべき水溶液範囲を分かりやすく図示し、各種資料に掲載した。

(4) P F O S 含有泡消火薬剤の誤放出時の取り扱いについて

・配管破損による誤放出のため P F O S 含有泡消火薬剤が放射された事例があるが、その際の取り扱いの基準がない。

・工業会として、火災時の放出と同様にできる限りの回収を行うことが望ましい等の考え方を整理した。

(5) サンプルング検査を行う際に必要な泡消火薬剤量の検討

・ P F O S 含有泡消火薬剤についてサンプルング検査を行える会社は数社あるが、検査を行うのに必要な量が 1 リットルの会社と 2 リットル必要な会社があることが判った。

・サンプルング検査リーフレットの修正等の対応を行なった。

(6) P F O S 含有廃棄物の処理業者について

・平成 23 年度は 8 社について紹介処理業者としていたが、平成 24 年度は 2 社を追加し、合計 10 社を紹介処理業者とし、各種資料に問い合わせ先として掲載した。

(7) 泡消火設備昇圧対策について

・従前からの検討議題候補として、泡消火設備の昇圧対策について、各社の事例、対策方法等を持ち寄り検討した。

・継続作業とする。

(8) 泡消火設備凍結対策について

・従前からの検討議題候補として、泡消火設備の凍結対策について、各社の事例、対策方法等を持ち寄り検討した。

・継続作業とする。

(9) 合同委員会

- ・技術委員会、第一部会、第三部会、劣化調査・検討委員会、設計工事基準書作成 WG 1、設計工事基準書作成 WG 3 と合同の委員会が平成 24 年 10 月に開催され参加した。

(10) 閉鎖型ヘッドを用いた泡消火設備の検討

- ・現在の泡消火設備は火災感知用閉鎖型ヘッドと開放型フォームヘッドを用いているが、閉鎖型ヘッドのみを用いた泡消火設備の基準案について、工業会としての意見を取り纏めた。

以 上